小枝粂次郎氏

薬新町出身

小枝粂次郎氏

この頃、薬師村(薬師町)や薬師新田村(薬新町)など８カ村は田畑への水を市野村二軒屋(与進中北大橋付近)に作られていた分岐点から引いていた。(片方は蒲村など１０ケ村に流れていた)
しかし明和６年には雨が全く降らず、どの村でも水に困っていた。上流から流れてくる水が少ない上に、分岐点の堰を土堰にされてしまった。それまでは石を積み重ねて作った石堰であったので、少ないながらも石の隙間をぬって水が入り込んでいた。
それが土堰になったので、わずかな水も入らなくなってしまったのである.

薬師町にある薬師堂(公会堂)の前庭に「小枝粂次郎の碑」がある。碑の側面には「明和六年(1769)」八月に水騒動の志士同年１２月６日処刑されると刻まれている。この碑のすぐ後に「南無阿弥陀仏」と刻まれた自然石が建っている。これは小枝粂次郎の墓だと言われている。

小枝粂次郎は代々薬師新田村(今の薬新町)の庄屋の家に生まれた。小さな頃から利発な子として知られていたようである。１５歳の頃には、自分で馬の世話をしそれに乗って庄屋の仕事を手伝っていたという事です。

困り切った村人たちは、人望の厚い彖次郎を大庄屋に推薦し、水争いの代表とした。彖次郎は副総代の大石惣兵衛とともに相手方と交渉したが話し合いがつかず堰をはさんで暴動になりそうな気配となった。そこで彖次郎は訴訟することにした。彖次郎の必死の訴えにもかかわらず、逆に騒ぎを起こした者として囚われて牢に入れられてしまった。そして明和６年１２月６日最後の判決が出されるという日、非法な役人のために牢の出口から出ようとしたところを首を切られてしまったという。

しかし、彖次郎の死は無駄にはならなかった。
その年の堰は石堰になったという。村人は彖次郎のお陰であるとよろこんだという。彖次郎の死後、命日には薬師堂で供養が営まれた。この供養には、今でも地元の人たちが施主となって行われ、遺徳をしのんでいる。
彖次郎が体を張って話し合いをした場所、市野の二軒屋付近は今は別(集中豪雨)の浸水問題があり、浜松市の大きな治水計画の一環として取り組んでおります。
皮肉なことながら、まずは彖次郎さんも一安心されていることと思います。彖次郎さんにお礼と同時にご冥福をお祈りします。　　合掌

タジマ

WSC

薬師町　田島昭次

歴史に残る人々

小枝粂次郎　(小枝来舗)　金原明善　高柳健次郎

杉浦睦夫　鈴木暦太郎　大橋島太郎　石山脩平

その他和田地区の偉人をご存知の方ご一報ください

090-8671-6548　田島

和田地区偉人R-1